

## 第5回 総合計画策定委員会 作業部会(第5作業部会) 議事要旨

■日 時：令和5年（2023年）5月12日（金）13：05～15：07

■場 所：本庁中層棟4階 第4委員会室

■出席者：子育て政策室長、健康医療部参事（母子保健課、子育て給付課長、家庭児童相談室参事、保育幼稚園室長、こども発達支援センター長  
<事務局>行政経営部企画財政室 参事、主査

■欠席者：のびのび子育てプラザ所長

### ■資料

- ・資料1-1 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会設置要領
- ・資料1-1 吹田市まち・ひと・しごと創生推進委員会作業部会設置基準
- ・資料1-3 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定体制等（R5.4 一部追加）
- ・資料2 第4次総合計画見直し・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定スケジュール・本日の到達点
- ・資料3 第4次総合計画中間見直しの考え方（再整理）
- ・資料4 第4次総合計画基本計画改訂版素案（第5回作業部会時点）
- ・資料5 第4次総合計画基本計画改訂版素案 新旧対照表（第4回作業部会・第5回作業部会時点）
- ・資料6 第4次総合計画基本計画改訂版 見直し箇所一覧
- ・資料7 第4次総合計画基本計画改訂版 見直し箇所一覧（策定後の主な動向別）
- ・資料8 市民参画 主な意見
- ・資料9 SDGs バックキャスティング
- ・資料10 第4次総合計画基本計画改訂版 見直しポイント別施策指標一覧
- ・資料11 第4次総合計画基本計画改訂版 指標設定理由・根拠及び見直し理由一覧
- ・資料12 まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況報告（R3まで）
- ・資料13 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案
- ・手持ち参考資料1 デジタル田園都市国家構想（内閣府・令和4年（2022年）12月策定）
- ・手持ち参考資料2 地域創生 SDGs ローカル指標リスト
- ・手持ち参考資料3 SDGs スタディパネル

### 1. 開会

### 2. 案件

【報告】(1)～(2)（資料1、資料2）

【議題】(1) ア 中間見直しの考え方（再整理）（資料3）

【議題】(1) イ 検討（資料4、資料5）

ア) 中間見直し基本方針「策定後の主な動向」を踏まえた見直し（資料6、7）

#### 主な意見

##### ○待機児童数

・資料4の3ページ「(6) 少子高齢化の進行と子育て・教育施策の更なる推進」の項目に、「保育所の整備等を行った結果、待機児童数0人を達成」とあるが、あくまで令和4年度の状況であることを明記してもらいたい。

##### ○吹田版ネウボラの大綱3への移動

・資料7の6ページの大綱4の欄に「吹田版ネウボラについて大綱3から移動」とあるが、資料3のどの考え方に基づいているのか。中間見直しでは現行計画からの大きな変更はしないものと捉えていた。資料3の「1 基本方針を踏まえた中間見直しの考え方」では、「(1)「策定後の主な動向」を踏まえ必要な追補・増補を行う」と記載されており、大綱間の移動までは含まれないように捉えられるため、「追補・増補・変更」としてはどうか。

(事務局) 策定後の主な動向の「(6) こども家庭庁の発足及び子育て・教育施策の推進」を踏まえ大綱4に移動ということで整理したい。

##### ○不登校への対応

・資料7の6ページ、大綱4の欄に、「いじめへの対応」とあるが、現在、吹田市では不登校の子供が800人ほどいることが課題となっているため、不登校への対応についても追記した方がよいのではないかと。児童部でも、アウトリーチの関係で教育関係の部署と連携した動きを考えているため、教育の作業部会から不登校への対応に関する意見が出たか確認したい。不登校への対応は、ヤングケアラーへの対応など他の取組とも連動しているため、見直しにおける扱いを改めて検討いただきたい。

(事務局) 学校以外の居場所づくりの必要性など、審議会でも指摘があった。教育の作業部会でも、不登校への対応の必要性については認識し、現状と課題には記載があるが、新たに施策として追加するという意見は出ていない。

##### ○学校以外の居場所づくり

・政策2の「学校教育の充実したまちづくり」で触れる内容が児童部の取組とも連動していることが多い。例えば、学校以外の居場所づくりにも児童部は関わってくるため、大綱4の政策1でもそのようなことを示唆するような書き方をするかどうか検討したい。

##### ○施策指標「子育て支援コンシェルジュ」の年間利用者数

・資料4の29ページに、施策4-1-2に対応する指標として「子育て支援コンシェルジュ」の年間利用者数があるが、コロナ禍の影響もあり、窓口での相談以外の形による支援を進めているところがある。また、相談件数が増えることが、政策によるよい効果であるとは必ずしも言えない。他の大綱の施策指標と比べて、具体的過ぎるようにも思われるため、施策指標から削除してもよいのではないかと考えている。削除しないとしても、子育て支援コンシェルジュの利用件数は、窓口での相談件数をカウントしているが、メール等の窓口以外の相談も増加している。今後は、メール等による相談も件数としてカウントすることも考えられるが、そうした場合、施策指標としての連続性が損なわれて

しまう。コロナ禍に伴うデジタル化の動きと関連させて、指標を見直すという形にすることもできるかもしれない。

(事務局) 現時点では、見直しに当たって削除した指標はない。一方で、御指摘のように、困っている人の人数を示す相談件数が施策指標として適切かどうかという点は検討が必要であると思う。

#### イ) 市民参画で得られた市民意見の素案への反映(資料8)

※各作業部会における指摘を受け、資料を差替え。ホームページ公開分の資料8については、差替え後の資料。

#### 主な意見

・市民意識調査における分野ごとの評価については、順位ではなく、評価値の変遷を見た方が適切ではないか。

#### ウ) SDGs バックカスティングによる SDGs 推進のための施策の充実(資料9)

#### 主な意見

・ゴール2「飢餓をなくそう」のターゲット 2-1「栄養失調及びビタミン欠乏症における総患者割合」の大綱4政策1の欄に「子供食堂」とあるが、当てはまらないのではないか。

・ゴール14「海の豊かさを守ろう」のターゲット 14-4「乱獲をやめて、漁業の未来を守ろう」のローカル指標である「漁獲量及び養殖収穫量」について、「食育(魚)」が当てはまるとあるが、違和感がある。所管室課から見ると、このローカル指標と「食育(魚)」は距離が離れすぎているように思う。(事務局) 海外とはローカル指標への考え方が異なり、日本では、子供が魚をあまり食べなくなっていることが課題となっていることから、食育の推進により、魚の消費量を増やし、漁獲量や養殖収穫量の維持・増加を図る必要があるという意図のもと、「食育(魚)」が関連するとしている。

#### エ) 施策指標の見直し(資料10、11)

#### 主な意見

##### ○施策指標「吹田市で子育てをしたいと思う親の割合」

・審議会で指摘があった施策指標「吹田市で子育てをしたいと思う親の割合」について、国の「健やか親子21」におけるこの指標の説明を確認したところ、子供に関する施策だけではなく、公園整備等のまちづくり施策も含めて、全庁的に取り組むことが指標の向上のために必要であるとされていた。この指標を新規に追加するという事で問題ないか。施策指標がアウトプットを測るものに偏らないように、指標の追加を提案していた。ただ、今後の審議の中で、この指標は不要であると判断された場合は、削除してもよいと思う。

(事務局) 審議会での指摘の意図としては、施策の効果を検証するための指標としては、より直接的に施策による影響がある「「子育て支援コンシェルジュ」の年間利用者数」の方が指標としては妥当ではないかということだったと思う。

【議題】(2) 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略素案

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略 第1期まとめ(資料12)

イ 検討(資料13)

主な意見

○「子供」の表記

・「子供」を漢字表記することについて、審議会で意見はあったか。

(事務局) 審議会でも漢字表記を今後も続けるのか質問があったため、現行の総合計画ではそのように整理したと回答している。

○結婚支援

・国の施策の方向として「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」というものがあるが、吹田市では子育て支援に力を入れている。ただ、長期的に考えると結婚支援も必要ではないか。

(事務局) 今回策定する総合戦略は、今後5年間の計画であり、直近の吹田市の現状を踏まえると、結婚支援については特に注力すべき施策ではないと考えている。

3. その他(1)～(3)

以上